



主な意見交換

永山新川に関する 今年度の活動についての報告

恒例の3大イベントをはじめ、 多彩な活動を展開

- 今年度は7/16に開催した河川愛護月間イベント「ラブリバーinながやま」をはじめ、10月に「秋の永山新川まつり」、来年2月に「エコホテル&冬まつり」と、年3回のイベントを計画している。
- その他、水質調査をしながら牛朱別川の上流を目指す「永山新川の源流探検」を9月中旬に取り組み予定。冬に向けては、凧作りと凧上げ会を計画している。
- また、毎月第3土曜日には、使用済み天ぷら油を収集したアイスキャンドル作りを行っており、「エコホテル」と銘打って夏と冬にイベントを開催する予定。

新たな取り組み～

「水のみぐみ体験学校」について

- 水の恵みをテーマに、お米や野菜づくり体験、イカダづくりや川下り体験等を親子で経験しながら、子ども達に自主性と協調性を育ててもらおう体験学校を4月に開校。
- 参加者は小学生以上の子どもの保護者、計14組・38名で、月1回ペースで10月まで年7回開催する予定。

わき水利用の水辺づくりについて

きれいな水で安全に遊べる川を

- 「さらら」の対岸にある豊かなわき水を利用して、子ども達が遊べる水辺を地域と協働でつくるよう計画中である。
- 土木用ホースを使った簡単な方法で、わき水を「さらら」側に引き込むことにより、安全面



「さらら」対岸のわき水

で目が行き届くとともに、駐車場・トイレ・飲み水等の施設利用が図れて便利である。

- 水深の深い箇所については、30cm程度の安全な深さとなるよう、砂利を入れてなだらかにする必要がある。
- 春先は雪解けの影響で川が増水し、上流部から細粒分が溜る可能性があるため、地域の人と協力して掃除を行ってみたい。
- 昔の子ども達は川に行ってよく遊んでいたが、今は「川は危険な場所」という認識が一般的である。
- 安全性に配慮した整備は重要ではあるが、管理された人工的な場所をつくるということではなく、あくまで自然環境の一部として、親子がともに川とのつきあい方を学べる場であることが望ましい。
- それによって川へ親しむきっかけとなり、子ども達の冒険心や興味が本物の自然河川へと発展していくことを期待したい。

安全対策は親子いっしょに

- 安全に配慮した水辺であっても、子どもを遊ばせる親がその場にいるなどの責任意識の徹底を図る必要がある。
- 安全講習会などを催し、危険に対する対処方法を親子ともに経験・習得してもらってはどうか。

地元小学校の総合学習支援について

地域が連携し、 子ども達を育てていける環境づくりを

- 川は貴重な自然体験の場であり、子ども達の感性を磨き、想像力を養うのに最適な場所。



わき水周辺の説明図

特に永山新川周辺の小学校に対しては、「さらら」や永山新川に近いという利点を生かし、総合学習などの取り組みを地域がどのようにバックアップできるかを考えていきたい。

- 永山東小学校では、1・2年生では生活科、3～6年生は総合学習で川に関する学習が行われているが、生物・野鳥・水質の専門家の支援があれば、さらに授業が発展させられる。
- 旭川河川事務所では、「総合的な学習の時間」への支援として、水質調査等が体験できる「川の出前講座」を行うとともに、各種問い合わせには資料提供も併せて対応している。
- 地域の方々と先生方が勉強会等で交流を図り、川に関する共通の予備知識を持つことで、互いの連携がより深まっていくのではないかと。
- 「さらら」で夏休み中などに自由研究に関する取り組み（石ころアートなど）を実施すると、親の参加も期待できる。



座長を務める加藤氏



旭川開発建設部の
一条課長補佐



旭川河川事務所の小松課長



(財)旭川河川環境整備財団の
庄司専務理事



水辺づくりや総合学習支援の取り組みについて、
活発な意見が交わされました

「ぐるっと永山みてある記」を実施しました!

8月11日(金)、永山地区の小学校の先生を対象に、『ぐるっと永山みてある記』と題したイベントが開催され、今後の総合学習に役立ててもらおうことを目的に、永山の歴史・文化に関するスポットや河川施設等の実地見学が行われました。

当日は、地元の有識者の説明を受けながら永山神社等を見学した後、永山新川で水質調査やカヌー体験、「さらら」で意見交換会等が行われました。参加した先生方からは、「今まで知らなかった地元の歴史を再発見した」「身近な川でさまざまな体験ができることを実感した」など、新たな発見への感動の声が多数寄せられました。



永山新川の水とわき水の透視度を調べている様子